

序章

福山市観光振興ビジョン策定にあたって

1	ビジョン策定の目的	2
2	ビジョンの位置付け	3
3	ビジョンの取組期間	4
4	ビジョンの数値目標	4

序章

福山市観光振興ビジョン策定にあたって

1 ビジョン策定の目的

福山市には、万葉の昔から「潮待ちの港」として栄えた「鞆の浦」、新幹線のぞみ号が停車する福山駅から臨む「福山城」、「ばら公園」など全国的に有名な観光資源があります。また、内海町、新市町、沼隈町及び神辺町の合併した地域においても、海・山・川などの自然、歴史・文化、産業などの豊富な地域資源がありますが、観光資源として十分に活かされていません。

現在、山陽新幹線、山陽自動車道、西瀬戸自動車道、広島空港などの高速交通体系が確立され、全国主要都市からのアクセスにも優れ、中国・四国地方の経済・流通・文化の拠点都市として発展を続けています。

一方、近年の少子高齢化や高度情報化の進展、経済のグローバル化、人々の環境意識やまちづくりへの参加意識の高まりなど、我が国の社会経済環境は大きく変化してきています。

そのようななか、観光を取り巻く環境も、価値観の多様化や経済的・時間的に余裕のある高齢人口の増加、心の豊かさや自分らしさを志向する意識の高まりなどに伴って変化してきています。そのなかで、国は「観光立国行動計画」、さらに「観光立国推進基本法」を定め、観光の国際競争力の強化に努めるとともに、それぞれの地域が持つ特色を生かした魅力ある観光地づくりの推進を支援しています。また、国際化の影響により、本市への外国からの来訪者が増加し、今後の観光関連市場の拡大が予想されるなど、観光は21世紀の成長産業の一つとして注目されています。これらから本市としても地域資源や地域特性を最大限に活用しながら、地域の活性化を視点に取り入れた観光振興施策の展開が求められています。

このような観光を取り巻く状況をふまえ、福山市固有の地域資源を都市ブランドとして更に掘り起こすとともに、磨き、輝かせることにより、福山市の確固たるアイデンティティーを確立することが必要です。また、都市間競争に打ち勝つためにも、本市の観光のあるべき姿・進むべき方向性を明らかにし、さらなる観光振興を目指していかなければなりません。

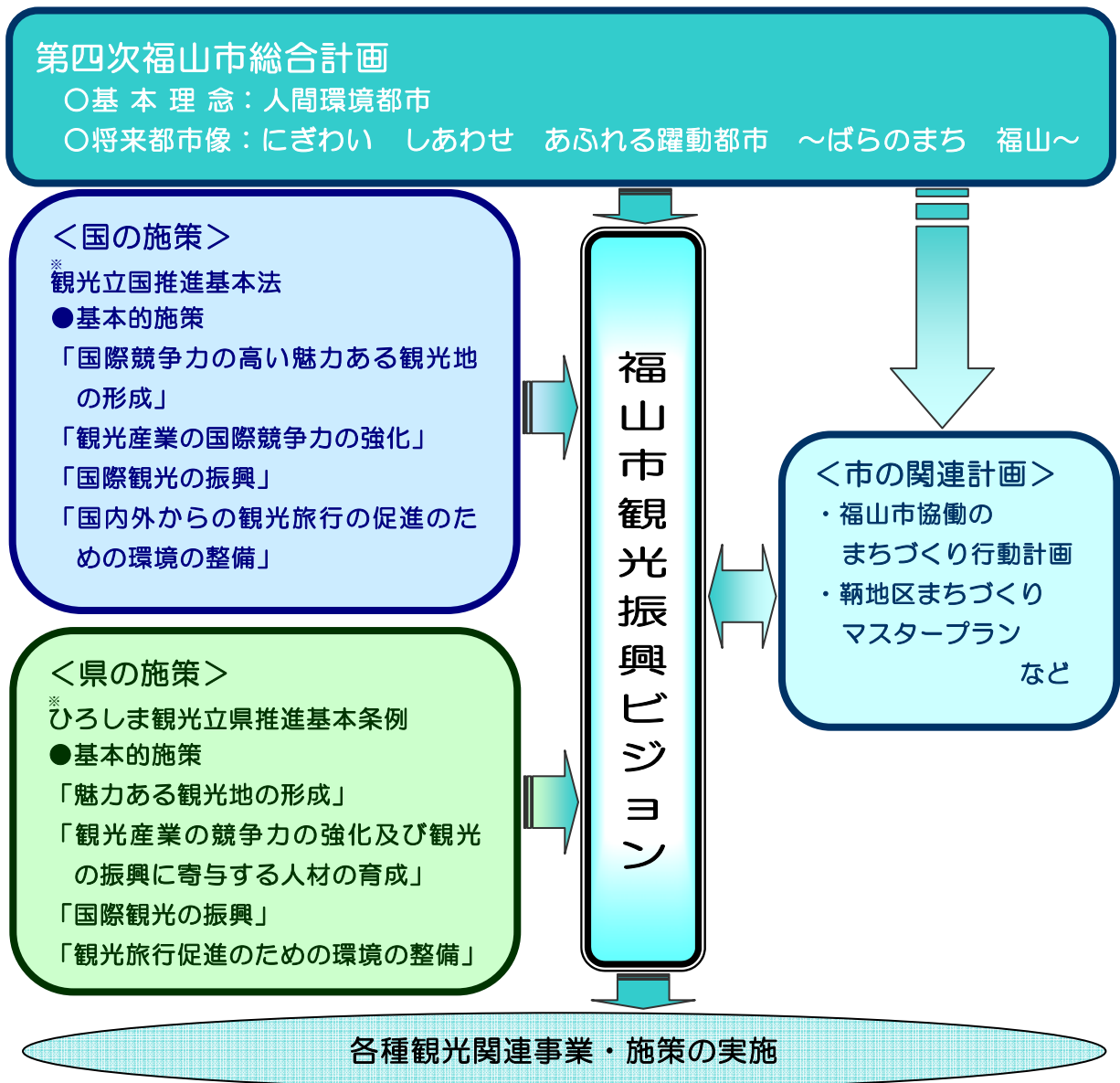
そのため、市民、観光関連事業者、観光関連団体、行政などが協働して、福山市固有の地域資源を活かし、市のイメージの積極的な発信など、新たな福山市の観光行政の指針とするべく、観光振興ビジョンを策定するものです。

2 ビジョンの位置付け

この観光振興ビジョンは、上位計画である「第四次福山市総合計画」における観光振興の基本的な計画であり、本市の観光振興の基本理念や将来的な方向性を示すとともに、市民、観光関連事業者、観光関連団体、行政などが協働し、観光振興施策を計画的に推進するために策定するものです。

策定の概念図については、つぎのとおりです。

★ ビジョン策定の概念図 ★



3 ビジョンの取組期間

ビジョンの取組期間は、2007年度（平成19年度）から2016年度（平成28年度）までの10年間とします。

ビジョン策定後は、ビジョン推進の進捗状況の把握に努め、観光を取り巻く環境の変化にも的確に対応しながら、必要に応じてビジョンの見直しを行うものとします。

4 ビジョンの数値目標

2005年（平成17年）を基準年次とし、目標年次である2016年（平成28年）の数値目標をつぎのとおりとします。

★ ビジョンの数値目標 ★

年度 指標	基準年次 2005年（平成17年）	目標年次 2016年（平成28年）
※ 総観光客数	617万人	710万人